

# 音楽科学習指導案

I 題材 旋律の重なり合う響きを味わおう

II 考察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

## ①知識及び技能

曲想と旋律の重なりや音色との関わりについての理解  
旋律の重なりや音色を生かした音楽表現をするために必要な技能

## ②思考力、判断力、表現力等

旋律の重なりや音色を聴き取ったり曲想を感じ取ったりして音楽を捉え、音楽表現を工夫したり、旋律の重なり合う響きを味わって聴いたりする力

## ③学びに向かう力、人間性等

旋律の重なり合う響きのよさや美しさに関心を持ち、進んで表現したり、聴いたりする態度

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

- A 表現(1) ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。  
イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。
- (2) ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。  
イ(ア) 曲想と音楽の構造との関わり  
ウ(イ) 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能。
- B 鑑賞(1) イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。  
〔共通事項〕 (要素) 音の重なり、旋律、音色

(3) 題材の価値

本題材は、曲想と旋律の重なりや音色との関わりを聴き取り、旋律をきれいに重ねて合唱や合奏をする学習である。その価値は以下のとおりである。

子どもたちが学習する曲の多くは、主旋律、副次的な旋律、伴奏と様々な旋律が重なり合い構成されている。歌唱教材『いつでもあの海は』は最初の「一つの旋律の部分」、途中の「複数の旋律が異なるリズムで重なる部分」、最後の「複数の音の違う旋律が同じリズムで重なる部分」と、3種類の旋律の重なり方がある。題材の初めに、旋律の重なり合う響きを感じ取りながら歌うことは、旋律の重なりや声の音色と曲想との関わりに関心をもつことにつながる。

演奏教材『リボンのおどり』は、床に置かれたリボンを足を使って二人で結ぶという場面の様子から、ストーリーを思い浮かべやすく、演奏をする際の思いや意図をもちやすい曲である。また、七つの旋律が重なり合っており、旋律の重ね方を変えて演奏することで曲想にも変化を付けることができる。そのため、子どもたちは『リボンのおどり』を演奏しながら、曲想と旋律の重なりや音色との関わりについて聴き取り、自分たちの思いや意図に合わせて旋律の重ね方や使用

する楽器を工夫することができる。その中で、旋律の重なりや音色を生かした音楽表現をするための技能を身に付けていく。

鑑賞教材『アイネクライネナハトムジーク』は、複数の旋律が重なった管弦楽の合奏曲であり、これまで学習してきた3種類の旋律の重なり方が曲中に表れる曲である。題材の最後に新しい曲を鑑賞することは、歌唱と演奏を通して学習してきた、曲想と旋律の重なりや音色との関わりについて、一層理解を深めることにつながる。

以上の題材を通して、子どもたちは、今後出会う様々な表現曲や鑑賞曲においても、旋律の重なりや音色が曲想を生み出していることに気づき、旋律の重なり合う響きのよさや美しさに関心をもちながら、表現したり聴いたりすることができるようになる。

#### (4) 今後の学習

ここでの学習は、5年「和音の美しさを味わって」で、I、IV、V度の和音の響きの美しさや移り変わりを感じ取りながら表現したり鑑賞したりする学習へと発展していく。

#### 2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、4年「合奏のひびき」において、様々な楽器の音色の響きや、音の重なりを感じ取って合奏をしてきた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本題材を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

① 曲想と楽器の音の重なり合う響きとの関わりについて理解してきている。このような子どもたちが、曲想と旋律の重なりや音色との関わりについて理解できるように、教材曲ごとに「全員で一つの旋律」「複数の旋律が異なるリズムで重なる」「複数の音の違う旋律が同じリズムで重なる」それぞれの重なり方における、曲想と旋律の重なりや音色の特徴について模造紙にまとめていく。

様々な旋律楽器の奏法を身に付け、音を合わせて演奏してきている。このような子どもたちが、旋律の重なりや音色を生かし、思いや意図に合った表現ができるように、4小節の旋律を、楽器の組合せを変えながら、繰り返し全員で合奏をする活動を設定する。

② 様々な楽器の音色や、音の重なり合う響きを感じ取り、学級のイメージに合わせて、音量のバランスや奏法を工夫してきている。このような子どもたちが、旋律の重なり合う響きを感じ取り、グループのストーリーに合わせて、旋律の重ね方を工夫して合奏をできるように、ストーリーと旋律の重ね方の工夫をつなげて記入できる、楽譜の記された学習プリントを用意する。

楽器の音の重なり合う響きのよさや美しさを味わって聴いてきている。このような子どもたちが、旋律の重なり合う響きのよさや美しさを味わいながら聴くことができるように、鑑賞の際に、本題材の学習で、曲想と旋律の重なりや音色の特徴についてまとめた模造紙を提示する。

③ 音を重ねて合奏をすることの楽しさを感じ、楽器の音色や響きに関心をもって合奏に取り組んできている。このような子どもたちが、旋律の重なり合う響きのよさや美しさに関心を持ち、進んで表現したり、聴いたりできるように、グループ同士で互いの演奏を聴き合う活動を設定する。

### Ⅲ 目標及び評価規準

#### Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

#### Ⅴ 本時の学習（5／7時間目）

1 ねらい グループのストーリーに合う旋律の重ね方を考えたり、グループ同士で互いの演奏を聴き合ったりする活動を通して、グループのストーリーに合う旋律の重ね方を工夫して試すことができる。

2 準備 学習プリント（楽譜） 透明シート 旋律の重ね方による曲想の違いをまとめた模造紙  
 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくたちは「二人が楽しく踊った後に、結ぼうとしたけれど結ばなくて、最後にできて喜ぶ」というストーリーを考えたのだったな。どのように旋律を重ねるとぼくたちのストーリーに合うか、試したいな。</li> </ul>	<p>○グループのストーリーに合う旋律の重ね方を工夫しながら試すという本時の見通しをもてるように、前時に考えた旋律の重ね方による曲想の違いをまとめた模造紙を提示し、グループのストーリーと本時取り組みたいことを問いかける。</p>
<p>めあて「グループのストーリーに合う、旋律の重ね方を工夫して試してみよう」</p>	
<p>2 グループごとに、ストーリー合った旋律の重ね方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「二人が楽しく踊っている感じ」を表すには「伴奏に合わせて主な旋律を二つの楽器で交互に演奏する重ね方」や「伴奏と打楽器の旋律を重ねる重ね方」が合いそうだね。試してみよう。</li> <li>・最初を伴奏と打楽器だけで演奏したら、わくわくする感じが出せたね。後で、他の重ね方とも比べられるように、透明シートの伴奏と打楽器の旋律に丸を付けておこう。</li> <li>・途中から伴奏に合わせて主な旋律を二つの楽器で交互に演奏したのだけれど、もう少しわくわくする感じを出したいな。どうしたらよいだろう。友達のグループは、どんな重ね方で演奏しているのかな。</li> <li>・友達のグループは、にぎやかな感じを出すために、主な旋律をキーボードで演奏していたよ。楽器を変えると、音色が変わって楽しい感じも出せそうだな。ぼくたちも主な旋律の楽器を変えて、試してみよう。</li> </ul> <p>3 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律の重ね方や楽器を工夫したら、ぼくたちの表したいストーリーに合う響きで演奏できるようになってきたな。</li> <li>・次回は、違うグループの合奏も、旋律の重ね方に気を付けながら聴いてみたいな。</li> </ul>	<p>○グループのストーリーに合う旋律の重ね方を試す手掛かりとなるように、旋律の重ね方による曲想の違いをまとめた模造紙から、ストーリーに合いそうな重ね方を選ぶよう伝える。</p> <p>○グループのストーリーに合う旋律の重ね方を比較しながら考えられるように、楽譜の記された学習プリントに透明シートを重ね、演奏する旋律を丸で囲み記録するよう伝える。</p> <p>○グループのストーリーに合う様々な旋律の重ね方に気付けるように、グループ同士で旋律の重ね方を共有する時間を設定し、お互いの工夫を聴き合うよう促す。</p> <p>○音色の違いによる曲想の違いに気付いて工夫できるように、楽器を変えて演奏しているグループを紹介する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">評価項目</p> <p style="text-align: center;">グループのストーリーに合う旋律の重ね方について発言や記述をしたり、旋律の重ね方を変えて演奏したりしている。</p> <p style="text-align: center;">&lt;発言・表現・学習プリント②&gt;</p> </div> <p>○グループのストーリーに合わせて、それぞれの旋律の重ね方を工夫した成果を実感できるように、本時で工夫したことを生かして演奏したり聴いたりするよう促す。</p> <p>○次時への意欲がもてるように、旋律の重ね方を試しながら演奏できたことを称賛する。</p>

指導と評価の計画（全7時間）

目標	曲想と旋律の重なりや音色との関わりを聴き取り，旋律をきれいに重ねて合唱や合奏をする。				
評価規準	(①知識及び技能)曲想と旋律の重なりや音色との関わりを理解している。 お互いの声や音を聴き合いながら，曲想に合わせて，旋律をきれいに重ねて歌ったり演奏したりしている。 (②思考力, 判断力, 表現力等)曲想に合わせて旋律の重ね方や音色を工夫して表現したり，旋律の重なり合う響きのよさや美しさを感じ取って聴いたりしている。 (③主体的に学習に取り組む態度)旋律の重なり合う響きのよさや美しさに関心をもって，進んで表現したり聴いたりしている。				
教材	ア…いつでもあの海は 佐田和夫 作詞 長谷部匡俊 作曲 へ長調 4分の4拍子 イ…リボンのおどり 芙蓉明子 日本語詞 メキシコ民謡 原由多加 編曲 ハ長調 4分の2拍子 ウ…【鑑】アイネクライネナハトムジーク 第1楽章 モーツァルト 作曲				
過程	時間	配分	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
つかむ  追求する	1	イ ア	○『リボンのおどり』を聴いたり，『いつでもあの海は』を聴いたり歌ったりして「旋律の重なり合う響きを味わいながら合唱や合奏をしよう」という題材のめあてをつかむ。	○旋律の重なりや音色によって響きが変わることを感じ取れるように，場面ごとに聴いたり歌ったりして曲想を比較する時間を設定する。	◇旋律の重なりや音色を聴き取り，曲想の違いについて発言や記述をしたり，進んで声を重ねて歌おうとしたりしている。 <発言・学習プリント・表現③>
	1		○『いつでもあの海は』を二部合唱する。	○曲想と旋律の重なり合う響きとの関わりに気付けるように，曲想と，旋律の重なりや音色の特徴とのつながりを模造紙に整理する。	◇曲想と旋律の重なりや音色との関わりについて発言や記述をしたり，お互いの声を聴きながら，声を合わせて歌ったりしている。 <発言・学習プリント・表現①>
	1	イ	○『リボンのおどり』を体を動かしながら聴いたり，各パートの旋律を演奏したりする。	○曲の場面をイメージできるように，二人組でリボンを用いて『リボンのおどり』に合わせて踊る時間を設定する。	◇曲想を感じ取り，曲の場面について発言や記述をしたり，曲に合わせて体を動かしたりしている。 <発言・学習プリント・表現③>
	1		○『リボンのおどり』のグループのストーリーを考え，様々な旋律の重ね方を試す。	○曲想と旋律の重なりや音色とを関連付けながら，様々な旋律の重ね方を試せるように，演奏する旋律に印を付けられる楽譜を用意する。	◇旋律の重ね方の違いによる，曲想の違いに気付き，発言や記述をしたり，様々な旋律の重ね方を試したりしている。<発言・学習プリント・表現②>
	1		○『リボンのおどり』の旋律の重ね方を試す。 (本時)	○グループのストーリーに合う旋律の重ね方を考えられるように，グループのストーリーと演奏の工夫をつなげて記入できる，楽譜の記された学習プリントを用意する。	◇グループのストーリーに合う旋律の重ね方について発言や記述をしたり，旋律の重ね方を変えて演奏したりしている。 <発言・学習プリント・表現②>
	1		○『リボンのおどり』の合奏をする。	○旋律の重なり合う響きのよさや美しさを味わうことができるように，発表するグループの合奏に合わせて，体を動かす時間を設定する。	◇曲のストーリーに合う旋律の重ね方を工夫し，響きのよさに関心をもって，お互いの音を聴き合いながら，旋律を重ねて演奏している。 <発言・学習プリント・表現①②③>
まとめる	1	ウ	○『アイネクライネナハトムジーク』を，旋律の重なり合う響きに気を付けて聴く。	○旋律の重なりや音色の違いによる曲想の変化に気付けるように，総譜を場面ごとに提示する。	◇旋律の重なり合う響きのよさや美しさを感じ取ったり，旋律の重なりや音色の違いによる響きの違いを聴き取ったりしたことを，発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント②>
【備考】使用する楽器：リコーダー，鍵盤ハーモニカ，木琴，鉄琴，キーボード，打楽器（カホン，小太鼓，タンブリン，ウッドブロック等）					